



ブーカな時代に求められる人材育成

4月9日(火)、鍼灸学科53名、柔道整復学科38名、看護学科53名、救急救命学科68名、大学院18名の新入生が入学してきました。新入生オリエンテーション、そして新学期の授業が始まり、若いエネルギーによりキャンパスは生き生きとしています。昔から言われていますが、立派な医療人になるには知・徳・体が必要です。そのための施設や自然が本学には備わっており、教員も惜しまず知識・技能を伝授しています。

現代社会はVUCA（ブーカ）な時代と呼ばれています。VUCAとはVolatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字で、先を予測することの困難さを意味する単語です。このブーカな時代では、単なる知識・技能では問題を解決できないことが多く、コミュニケーションを図りながら問題を解決する能力が必要とされています。ヨーロッパでは、職務的遂行能力を重要視し、心理的・社会的な資源を活用し課題を解決する教育を行うようになりました。またアメリカでは「21世紀型スキル」として、情報技術を含めた資質・能力を育成しようとしています。本学では、建学の精神である三つの和を大切にしながら、守破離の精神で教育改革を進めていきたいと思っています。

現在、本学では建学の精神のひとつである「自然との調和」をもとに、SDGs（持続可能な開発目標）やGX（グリーントランスフォーメーション）の観点から、新しい学部開設の取り組みをしています。「みどりの食料システム戦略」では、技術革新による有機農業の科学的アプローチを必要としています。そして有機農業生産を担える人材、有機農産物の食品加工や流通における人材が求められています。これらに焦点を絞った農学系学部の新設（令和9年4月開設予定）にむけて準備を進めています。持続可能で心豊かな社会に貢献できる人材育成は、建学の精神が目指すそのものと考えています。



学長 勝見泰和

鍼灸学部 鍼灸学科

Faculty of Acupuncture and Moxibustion

今年度の入学前教育

今年度の新入生は、親睦を深めるために入学式前にBBQを開催しました。これからお世話になる先生方や、4年間ともに勉強する仲間と楽しい時間を過ごすことができました。

このイベントは、コロナの影響もあり、なかなか開催できずにいました。しかし、この日は少し肌寒かったものの、天候にも恵まれてアウトドア活動にぴったりの日でした。

当日は、まずくじ引きで教員と新入生が各班に分かれました。班ごとに自己紹介やゲームを行い、最初は緊張していた新入生も次第に打ち解けていきました。自己紹介やゲームを通じて、距離が一気に縮まったと感じられました。

その後、BBQの準備が始まりました。学生たちは協力して火起こしや食材の準備を進め、焼きあがったお肉や野菜をみんなで美味しくいただきました。

このBBQを通じて、新入生たちはお互いのことをよく知り、良いスタートを切ることができました。今後は、在学生も含めた親睦会を計画しており、さらにコミュニティの絆を深めていきたいと思っています。

親睦を深めるためのこのようなイベントは、学校生活をより豊かにし、楽しい思い出を作る貴重な機会となります。これからも積極的に取り組んでいきたいと考えています。



保健医療学部 柔道整復学科

Faculty of Judo Seihuku Therapy

日吉の特産物「エゴマ」の栽培体験実習

今年も日吉の特産物「エゴマ」の栽培体験実習に参加してきました。今年度は、農業体験を通じ、近年地域の高齢化により生産者が減少、鹿や猪による農作物の被害が多発しているなどの農業を取り巻く社会問題の現状も知ることができました。一見、医療と農業は関係なく見えますが、一人の学生として、人間として、地域交流をしながら地域産業や地域の人を知ることは、地域医療に携わるであろう学生にとって欠かせないことだと考えます。

厳しい農業の世界を体験できたことは学生にとっても良い社会学習になったと思われまます。貴重な体験をさせていただきました農場には大変感謝しております。



京都丹波トライアスロン大会in南丹

7月7日(日)、南丹市桂川(大堰川緑地公園)及び周辺地域で行われたトライアスロン大会に約20名の学生が参加選手のボディケアをサポートする実習を行いました。

日頃、大学のクラブ活動でサポートをしている学生もいれば、ボディケアの知識は授業だけという学生もあり、対応能力に差はあるものの、事前に学習したことを基に、それぞれの学生なりに対応していました。約80名の選手が利用していただき、大変忙しい実習でしたが、最初は実習に消極的だった学生も徐々にさまになってきて、5時間ほどの実習の間に学生の実践力や礼節や接遇などの成長をうかがうことができました。

テキパキと選手に問診やアイシングをしている姿を見ると、外部実習でしか学習できない内容があることを認識させられました。



保健医療学部 救急救命学科

Faculty of Emergency Medical Science

学びて思わざれば、則ち罔し

様々な実習を通して実践力を養います!

本学では、海や河川、雪山など、あらゆる場面を想定した実習プログラムを通して、高い判断力と実践力を兼ね備えた救急救命士の育成を目標としています。2年生の前期は河川の臨地実習で消防救助の基礎と自己の安全確保を主軸とした水中のロープ結索や河川流での歩行、ラフティングボートの操船技術などを通じて、自然環境の豊かさや危険性、知識と技術の必要性を学習しました。他学年においても夏季休業期間や後期の授業では、ライフセービング実習や都市型救助実習などを通して、勉学だけでなく体力面の強化も図ります。

3年生は国際感覚を醸成し、先進的な海外の救急医療体制を学ぶことを目的に、オーストラリア・メルボルン州のMonash大学にて実習を行いました。救急医療機関の指令室や訓練施設の視察、現地の大学生との交流を通じて、グローバルな思考や国際的な視野を獲得し、その見識を広めることができました。



学生3名が第27回 日本臨床救急医学会総会・学術集会にて発表を行いました!

鹿児島市で開催された学会で、当学科の学生3名が発表を行いました。この学会には、多くの救急医療分野の専門家や医療従事者が参加します。初めての発表で学生たちは緊張していましたが、全員が無事に発表を終えることができました。医学の進歩は日進月歩であり、医療人には絶え間ない自己研鑽が求められます。研究活動への挑戦を通じて、知識を深めるだけでなく、より多角的な視野と理解の獲得を目指します。知識は持っているだけでは役に立ちません。それを実践し、技術として身につけることが、即戦力となる救急救命士への第一歩です。



看護学部 看護学科

Faculty of Nursing Science

看護学部3年生、実習が始まる

本年度より看護学部は、新カリキュラムに伴い、5月末より臨地での実習が開始されました。また、今年度より回復期看護学領域が始まり、退院支援を視野に入れた関わりの中で、在宅・施設等につなぐ支援を学び、健康状況に応じた看護実践が行われています。施設での療養生活を送る高齢者の健康問題を理解するために、介護老人保健施設での臨地実習において、高齢者の特徴をふまえてより良く自立した生活支援について考え、高齢者の障害に合わせたケアの工夫や生活環境の調整を実施し、持てる力を活かした看護過程の展開を行っています。

入所様に楽しんでもらうように、レクリエーションを学生が企画し、綿密にリハーサルを行ったうえで実施しました。今回のグループは7月末の実習であったことから、「夏」をテーマに考え、少し早い「盆踊り」を実施しました。入所者様からも好評で、皆で炭坑節を歌いながら、楽しむことができました。

こうした体験を通して、さまざまな病院や施設、在宅といった対象者の環境に沿った看護を学んでいきます。



大学院 鍼灸学研究科

Graduate School of Acupuncture Moxibustion

遠藤愛さん、大学院での学びと活動

今年度、大学院（修士課程）に入学された遠藤さんに、大学院での学びと活動についてお聞きしました。

「私は、専門学校の鍼灸学科を卒業後、本学に3年次編入し現在は大学院修士課程で学んでいます。専門学校生のころは、鍼灸の勉強だけでなくアメリカンフットボールの社会人チームやジュニアのサッカークラブなどでトレーナーとしての勉強もしていました。そんな学生生活を送る中で、「大学の先生になりたい、後進育成に関わりたい」と考えるようになり、大学院進学を道として選びました。しかし、大学院に進学するためには学位が必要となります。学位は通信制の大学でも取得できたのですが、大学の先生を目指すなら大学生を経験しておく必要があると感じ、本学に3年次編入しました。本学を選んだ理由はとてもシンプルで、この先生のもとで勉強したい、トレーナー活動も継続したいという想いがあったからです。そして、編入してすぐに自転車競技部から声をかけていただき、トレーナーとしてさまざまな大会に帯同してきました。

現在、大学院では「痛みと不安」をテーマに研究の勉強、講義、附属鍼灸センターでの実習、自転車競技部のトレーナーと、忙しくも楽しい毎日を送っています。



大学院 保健医療学研究科 保健学専攻

Graduate School of Health Sciences and Medical Care

大学院保健医療学研究科保健学専攻博士後期課程が新設

今年度4月保健学専攻博士後期課程が設置され、3名が受験、2名合格、1名が入学しています。修士課程は5名（看護師、保健師、助産師、救命救急士：そのうち卒業生4名）が在籍し、4名が修了する予定です。大学院生はそれぞれの研究テーマを着実に深堀し、将来の研究者・教育者や高度な臨床家を目指しています（写真）。仕事と両立できるカリキュラム編成や長期履修制度、また卒業生の支援もありますので、卒業生や在校生の皆様は、大学における研究者・教育者や高度な臨床家を目指して、是非大学院進学を考えていただきたいと思います。お待ちしております。



大学院保健医療学研究科 研究科長 桂 敏樹

こころの相談室のご紹介

本学では学生のメンタルサポートの一環として、こころの相談室を設置しています。これまでも相談室自体は設置されていたのですが、本年度より週に3日（水、木、金）の開設となり、日々様々な悩みを持つ学生が利用してくれています。

こころの相談室では、主にカウンセリングを中心とした対応を行うほか、学内にいることが落ち着かない学生については避難場所や居場所として利用してもらったり、本人の特性に起因する勉強の難しさを抱える学生には勉強の補助をしたりと、様々な方法で学生さんと関わっています。

さて、ここまでの話を見ると、「こころの相談室は、メンタルがしんどくなった人が利用する場所だ。」といった印象を強く受けるかもしれません。この様な印象を持つと、どうしても、弱い、病んでるといったネガティブなイメージも一緒に持ってしまいますし、同時にこの様なイメージは相談室の利用を妨げる要因にもなってしまおうでしょう。

しかし実際はそうではなく、単純に話に行く所（居場所）としても使ってもらえます。例えば、「友達とお茶するついで」に利用してもらっても構わないという事です。「そんなことをしても大丈夫なの？相談に行く場所じゃないの？」と疑問を持つ方もいるかもしれませんが、ちょっとした世間話をする中で、しんどくならないための予防的ケアを行うことも出来ますし、あまり仰々しくカウンセリングをする事も個人的にはあまり好きではなかったりします。

そんなわけで、「ふらっと寄れるおしゃべりな先生のいる場所」の様な感じで、気軽に使ってもらえると嬉しいです。



臨床心理士 池田

お知らせ

新入生オリエンテーションを実施しました

4月9日（火）～12日（金）にかけて、新入生が大学生活を安全に安心して過ごせるよう、オリエンテーションを実施しました。

授業関係や奨学金等の案内に加えて、附属防災救急救助研究所による避難訓練および防災・安全講習会の実施や倫理講習会も行いました。避難訓練ではスモークマシンで噴出した煙の中を実際に避難し、前が見づらい中での安全な避難方法を学びました。防災・安全講習会においては、南丹市消防団学生団員やレスキューパラメディック部に所属する在学生が主となり、身近な物を使用しての応急手当や、消火器を使用した消火訓練を体験しました。

また、倫理講習会では、南丹警察署をお迎えし、薬物乱用防止について講演いただき、正しい認識と判断力を以て、今後の大学生活を過ごしていくことを助言いただきました。その他、臨床心理士（本学専任講師）による心のケアや相談室の案内、またハラスメント防止対策についての講習も行いました。



第45回たには祭を開催します

前夜祭ライブにはじまり、学生主催の模擬店、イベントが盛り沢山。フィナーレにはスカイランタンを飛ばします。学生同士、教職員の交流は勿論、地域の方々との交流も目的としていますので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。大いに盛り上がりましょう。

10/25㊟ 前夜祭ライブ
10/26㊟ 10:20～17:30予定



たには祭実行委員長 副委員長
救急救命学科4年生 救急救命学科2年生
松尾勇輝くん 橋本隆聖くん



第45回たには祭 「あつまれ進化・新生 たには祭」
10/25 16:00～前夜祭ライブ
10/26 10:20～17:30予定
殿田中学校吹奏楽部・NANTANZライブ
小中学生ダンス・消防団イベント他

本学学生が京都史上最年少の救急法指導員に認定

救急救命学科1年生の秋田光姫さんが赤十字救急法指導員に京都史上最年少となる19歳で認定されました。

救急法指導員とは、赤十字が行う心肺蘇生や止血法などの応急手当の方法を、府民の方々に指導することができる資格です。

認定されるためには、基礎講習、救急員養成講習、指導員養成講習を受講し、学科・実技の検定に合格するだけでなく、指導員としての「リーダーシップ」「コミュニケーション」「コーチング」などの能力も求められる難関なもので、19歳での救急法指導員は全国的にも数少ない認定となりました。



前右 秋田光姫さん

学生食堂

メニューはワンコインでもボリューム抜群！管理栄養士の監修により栄養バランスは勿論、旬の素材を利用して、家庭の味と満足感溢れるメニューを提供しています。

また、大学周辺に飲食店が無いため、学生食堂が憩いの場でもあります。嬉しい時、頑張った時、悔し涙を流した時等、喜怒哀楽様々な感情を持ち訪れる学生の心の面でも支えていけるアットホームな雰囲気学生食堂を目指しています。



— 未来への道 —

このたび、明治国際医療大学教育振興会会長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。
 平素から、教育振興会の事業にご支援ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。
 さらなる向上を目指し、一生懸命に尽力いたして参りますので、何卒宜しくお願い致します。
 さて、日本の実業家で、「経営の神様」とも呼ばれ、パナソニックホールディングスを一代で築き上げた松下幸之助という人物をご存知でしょうか。松下幸之助は、「人間の価値は、いかに他人に役立つかによって決まる」という言葉を残しています。社会に対してどれだけの貢献ができ、他人のためにどれだけの役に立つことができるのだろうかと考えることが重要であると述べています。
 これらにはまず、「専門知識を深め、実践的なスキルを磨くこと」が大切です。他人の役に立つためには自身自身のスキルを高める必要があります。継続的な学びと自己研鑽は必要不可欠であり、ただ知識を蓄えるだけでなく、実践的に活用していくことが重要です。



会長 榎田 幸雄

次に、「他者との協力とチームワークを忘れないこと」が大切です。成功を収めるためには一人の力だけでは限界があります。多くの人と協力し、繋がることで、互いに成長し、乗り越えていくことができます。また、チームでの連携を生かしながら、個々の力を最大限に引き出し、相互に支え合いながら前進していくことで、より大きな成果を得ることができると信じています。そして、「社会的責任を果たし、倫理的な行動を心掛けること」が大切です。自分の行動が他者や社会にも影響を及ぼすということを意識し、倫理的な行動をすることによって、信頼される人材となり、社会に対しても積極的に貢献できる人材となります。

これらの人間性を構築させるためには、挑戦と失敗を恐れてはいけません。新しいことに挑戦する過程において、失敗を避けるということは困難なことかもしれません。しかしながら、失敗から学ぶことは多く、発見、成長へと繋がり、次に活かそうとすることで、人は強くなります。失敗を恐れずに、積極的に挑戦し続ける姿勢が、将来の成功へと導くこととなります。

本年度も教育振興会の取り組みとして、より良い学生生活が送れるように、環境整備を始め、部活動関連、教育研究活動等に積極的に支援させて頂きたいと考えております。大学と教育振興会とが相互に連携し合い、学生生活が向上するようにと心から願っております。

会員の皆様には、心から感謝の気持ちをお伝えするとともに、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

令和5年度 明治国際医療大学 教育振興会【事業・収支報告】

令和5年4月1日～令和6年3月31日

収入の部		支出の部	
会費	12,670,000	教育・研究活動に関する支援	1,808,856
新入生	246名 12,300,000	クラス懇談会等支援金	546,706
新入生(編入)	5名 100,000	海外研修支援金	0
大学院(修士)	12名 240,000	資格取得支援金	204,250
大学院(博士)	1名 30,000	国家試験模試支援金	1,016,900
コピーカード売上	25,300	大学院生学会発表支援金	41,000
受取利息	307	課外活動に関する支援	4,428,406
		課外活動支援金	3,727,806
		たには祭協賛金	500,000
		たには祭金券補助	200,600
		ボランティア活動支援金	0
		福利厚生費に関する支援	3,223,390
		100円朝食支援金	1,519,370
		アスリート食支援金	1,246,250
		慶弔・見舞金等	0
		アルバム購入費用補助	315,770
		卒業記念パーティー費用補助	142,000
		学修環境整備に関する支援	4,465,867
		自習室複合機リース料・印刷代他	877,037
		学修環境整備費	588,830
		学修環境整備積立金	3,000,000
		その他の経費	193,346
		教育振興会会長表彰	43,600
		会議費・役員交通費	75,131
		印刷・通信費	73,645
		事務経費	970
当期収入小計	12,695,607	当期支出小計	14,119,865
前期繰越金	14,566,842	次期繰越金	13,142,584
収入の部合計	27,262,449	支出の部合計	27,262,449

【期末預金の内訳】

次期繰越金	13,142,584円
学修環境整備費積立金	21,000,000円
計	34,142,584円

明治国際医療大学教育振興会
 会長 榎田 幸雄 殿

監 査 所 見

令和5年度収支計算について、必要な監査手続きを実施した。
 監査の結果、その内容は適正に表示されていることを認めます。

令和6年5月12日
 監事 広田 延孝
 監事 藤井 義巳

令和6年度 明治国際医療大学 教育振興会【役員紹介】

任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

役 職	氏 名
会 長	正会員（1名） 榎田 幸雄
副 会 長（2名）	正会員（1名） 南平 英樹
	教職員（1名） 小川 豊清
幹 事（若干名）	正会員（若干名） 中沢 真佐美、西森 沙恵、樋口 由実、井尻 裕美、宇野 美紀
	教職員（若干名） 河井 正隆、檀上 博、伊藤 肇敏
会 計	正会員（1名） 廣瀬 仙義
	教職員（1名） 松岡 佳代
監 事	正会員（1名） 国府 千香代
	教職員（1名） 藤井 義巳

令和6年度 明治国際医療大学 教育振興会【事業計画・収支予算】

1. 事業計画
- (1) 教育・研究活動に関する支援
 クラス懇談会等の開催や、海外研修、就職活動および資格取得等を支援
 ①クラス懇談会等の支援（飲食費の一部補助） 1,500円×888名
 ②海外研修の支援（旅費の一部補助） 5万円×22名(令和5年度分7名・6年度15名)
 ③資格取得の支援（技能検定等の一部補助） 1万円(上限)×30名
 ④国家試験模試の一部補助 5,000円×250名
 ⑤大学院生学会発表に対する支援 1万円(上限)×33名
- (2) 課外活動に関する支援
 クラブ活動、ボランティア活動および大学祭等の大学行事への支援
 ①課外活動の支援（部活支援・応援バスの運行・全国大会出場激励金等）200万円
 ②たには祭の協賛金 50万円
 ③たには祭の金券補助 1,000円×300名
 ④ボランティア活動の支援（交通費・ボランティア保険の一部補助）10万円
- (3) 福利厚生に関する支援
 健康保持・増進のため100円朝食の提供など、福利厚生を支援
 ①食育の支援（朝食料金の一部補助） 260円×月850食×10ヵ月
 ②アスリート食の支援（朝食料金の一部補助） 50円×25日×月100食×12ヵ月
 ③卒業アルバム費用の補助 3,000円×200名
 (4) 学修環境の整備に関する支援
 学修環境充実のための備品、用品および出版物等の整備
 ①学修支援センター複合機リース料、印刷代（コピーカード配付500枚/人）100万
 ②図書の寄贈
 ③学修環境充実のための整備
 (5) その他
 ①教育振興会会長表彰 10,000円×4学科
 ②役員会への出席に伴う交通費の負担
 ③印刷・通信費（大学日より印刷費・役員会開催案内状の印刷・発送・会議費等）
 ④事業計画・収支予算および事業報告・収支決算の公表（印刷・発送）

2. 収支予算（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

収入の部		支出の部	
会費	11,020,000	教育・研究活動に関する支援	4,312,000
新入生	212名 10,600,000	クラス懇談会等支援金	1,332,000
新入生(編入)	2名 40,000	海外研修支援金	1,100,000
大学院(修士)	16名 320,000	資格取得支援金	300,000
大学院(博士)	2名 60,000	国家試験模試支援金	1,250,000
コピーカード売上	30,000	大学院生学会発表支援金	330,000
受取利息	250	課外活動に関する支援	2,900,000
		課外活動支援金	2,000,000
		たには祭協賛金	500,000
		たには祭金券補助	300,000
		ボランティア活動支援金	100,000
		福利厚生に関する支援	4,410,000
		100円朝食支援金	2,210,000
		アスリート食支援金	1,500,000
		慶弔・見舞金等	100,000
		アルバム購入費用補助	600,000
		学修環境整備に関する支援	6,650,000
		自習室複合機リース・印刷代他	1,000,000
		図書寄贈	150,000
		学修環境整備費	2,500,000
		学修環境整備積立金	3,000,000
		その他の経費	280,000
		教育振興会会長表彰	50,000
		会議費・役員交通費	100,000
		印刷・通信費	100,000
		事務経費	30,000
		予備費	1,000,000
当期収入小計	11,050,250	当期支出小計	19,552,000
前期繰越金	13,142,584	予備費	4,640,834
収入の部合計	24,192,834	支出の部合計	24,192,834



女子柔道部

全日本学生柔道優勝大会で3位

6月22日(土)・23日(日)の2日間、武道館(東京)で行われた2024年度全日本学生柔道優勝大会(男子73回、女子33回)の女子1部(5人制団体)に本学女子柔道部が出場。1部では過去最高となる3位入賞を果たしました。2回戦から登場した本学女子柔道部は、平成国際大学を5-0のストレートで下し3回戦に進出。3回戦では前回準優勝の国士舘大学を2-0で破り勢いに乗ります。続く準々決勝では、昨年の5及び7人制団体戦でいずれも敗れている東京学芸大学と対戦。次鋒の山本選手、副将の高木選手がそれぞれ勝利を挙げ初のベスト4に駒を進めます。準決勝では、優勝した東海大学に0-2で敗れ、惜しくも決勝進出は逃しましたが快進撃で全国にその名を轟かせました。応援ありがとうございました。

女子1部(5人制団体) 3位 明治国際医療大学

<登録選手>

嶋田光紗(柔道整復学科4年)主将 松浦ゆうき(看護学科4年)
井上果音(柔道整復学科3年) 高木水月(救急救命学科3年)
南平優華(救急救命学科3年) 山本空(鍼灸学科3年)
西森奈花(看護学科2年) 山里椿華(救急救命学科1年)



陸上競技部

学生個人選手権の女子やり投で山崎選手が8位入賞
西日本インカレで古西選手が長距離二冠を獲得

6月14日(金)から16日(日)の3日間、レモンガススタジアム平塚(神奈川)で行われた2024日本学生陸上競技個人選手権大会に本学陸上競技部から参加標準記録を突破した4人の選手が出場。女子やり投で山崎絢音選手(看護学科2年)が50m12を投げ8位入賞と健闘しました。また、7月5~7日(金~日)の3日間、博多の森陸上競技場(福岡)で開催された第77回西日本学生陸上競技対校選手権大会(西日本インカレ)でも、本学女子長距離のエース・古西亜海選手(鍼灸学科3年)が猛暑のなか5000m・10000mで快走。16分56秒09・35分20秒51でいずれも優勝し二冠を獲得するなど活躍しました。



古西選手



山崎選手



女子剣道部

関西学生で瀬野選手が準優勝 4人が全国大会出場

4月28日(日)、おおきにアリーナ舞洲(大阪)で第54回関西女子学生剣道選手権大会(関西インカレ個人)が開催され本学女子剣道部から7人が出場。第58回全日本女子学生剣道選手権大会の出場権を得るベスト20を目指し挑みました。昨年は、個人、団体共に全国を逃している女子剣道部でしたが、瀬野通選手(救急救命学科3年)が、創部以来最高順位となる準優勝に輝いたほか、興柁桃葉選手(看護学科2年)、小澤永遠選手(看護学科2年)がベスト16、渡島綾音主将(鍼灸学科4年)もベスト20に食い込むなど過去最多となる4選手が全国大会出場を果たしました。



全国出場を果たした前・瀬野選手、後左から興柁、渡島、小澤選手

